

授業科目名	授業担当者(担当)氏名	区分	単位	年間授業時間	受講学年	開講年次
専攻実技 I	銅銀 久弥 (Vc) 田部 京子 (Pf) 岡田 博美 (Pf) 川久保 賜紀 (Vn) 鐵 百合奈 (Pf) 他	必修	4	32時間	1	毎年

《授業の概要》

専攻実技個人レッスン。年間「32時間」のレッスン受講と年次試験をパスすることにより「4単位」が与えられる。

《到達目標》

専攻する楽器の演奏において必要とされる「楽曲の各箇所に適した音を奏でる技能」、および「多角的な視点から楽譜を分析し、演奏に反映させる能力」の習得をすることができるようになる。さらに、教場内にとどまらず、リサイタル I やコンチェルト実習といった実践的な場において成果を発揮するための学修も行う。

《履修方法》

- ・4月のオリエンテーション時に「専攻実技担当教員」を発表する。研究・指導上必要がある場合には、年度途中で担当教員が変更されることもあり得る。
- ・専攻実技担当教員の決定については入学時の状況(入学前の学習状況など)、学生の研究計画、指導上の観点などを検討し「研究科委員会」で確認する。
- ・年間のレッスンのスケジュールは、当該年度の研究計画を中心に、年度当初のオリエンテーション時に担当教員と相談する。履修時間は原則32時間とし、大幅な減少、増大は認められない。
- ・レッスン受講の記録は、受講票に記載するものとする。
- ・所定の演奏試験についての詳細(日程、内容、審査、評価など)は別に定める。
- ・弦楽器専攻生の専攻実技レッスンあるいは試験において「ピアノ伴奏者」を必要とする場合は、原則として学生各々が指導教員の了解の上で交渉し、決定するものとする。

《授業計画》

オリエンテーション(個別面談)時に、学生個々の研究計画書に基づいた年間計画を担当教員と相談する。

《履修資格／履修に必要な予備知識や技能》

各専攻1年次生

《授業の形式》

実技レッスン

《成績評価の要点》

試験 60%、受講姿勢 40%

試験は、100点満点中、70点以上を合格とする。

成績は、上記の項目についてそれぞれの配分で総合的に評価し、単位を認定する。

《課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法》

課題に対しての到達度と成果について、担当教員のコメントを基に研究を進める。

《事前・事後学習、必要時間》

与えられた楽曲などの課題を技術的かつ音楽的に理解し修得できるよう練習する。

レッスン後には修正点や、今後の課題について確認し、復習する。

事前、事後学習に必要な十分な時間を設定する。

《教材》

選択した楽曲のパート譜、総譜 等

《授業時間以外で、この授業内容等について質問がある場合》

レッスン時間前後。事前に担当教員へアポイントを取ること。

授業科目名	授業担当者(担当)氏名	区分	単位	年間授業時間	受講学年	開講年次
専攻実技Ⅱ	銅銀 久弥 (Vc) 田部 京子 (Pf) 岡田 博美 (Pf) 川久保 賜紀 (Vn) 鐵 百合奈 (Pf) 他	必修	4	32時間	2	毎年

《授業の概要》

専攻実技個人レッスン。年間「32時間」のレッスン受講と授業内での研究成果の発表により「4単位」が与えられる。

《到達目標》

専攻実技Ⅰを更に進め、より高度な技術、音楽性の習得をすることができるようになる。リサイタルⅡ、コンチェルト実習、修士演奏試験、修士リサイタルといった実践的な場において成果を発揮するための学修も行う。

《履修方法》

- ・オリエンテーション時に「専攻実技Ⅱ」の担当教員を発表する。研究・指導上必要がある場合には、それまでの担当教員が変更されることもあり得る。
- ・実技担当教員については、前年度の状況、2年目の学生の研究計画、学生の意思、指導上の観点などを検討し「研究科委員会」で確認する。
- ・年間のレッスンのスケジュールは、当該年度の研究計画を中心に、年度当初のオリエンテーション時に担当教員と相談する。履修時間は原則32時間とし、大幅な減少、増大は認められない。
- ・レッスン受講の記録は、受講票に記載するものとする。
- ・弦楽器専攻生の専攻実技レッスンあるいは試験において「ピアノ伴奏者」を必要とする場合は、原則として学生各々が指導教員の了解の上で交渉し、決定するものとする。

《授業計画》

オリエンテーション(個別面談)時に、学生個々の研究計画書に基づいた年間計画を担当教員と相談する。

《履修資格／履修に必要な予備知識や技能》

各専攻2年次生

《授業の形式》

実技レッスン

《成績評価の要点》

授業内での演奏研究成果の発表 60%、受講姿勢 40%

成績は、上記の項目についてそれぞれの配分で総合的に判断し、「合格」又は「不合格」の表記とする。

(学生が修了審査において選択した修士演奏試験は点数評価とし、100点満点中70点以上を合格とする)

《課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法》

事前、事後学習に必要十分な時間を設定する。

《事前・事後学習、必要時間》

与えられた楽曲などの課題を技術的かつ音楽的に理解し修得できるよう練習する。

レッスン後には修正点や、今後の課題について確認し、復習する。

事前、事後学習に必要十分な時間を設定する。

《教材》

選択した楽曲のパート譜、総譜 等

《授業時間以外で、この授業内容等について質問がある場合》

レッスン時間前後。事前に担当教員へアポイントを取ること。